

# 松江市立鹿島東小学校 第1学年実践

報告者 松崎 雅史

## 1. コロコロテニピンをしよう (ゲーム領域 ボールゲーム)

## 2. 単元の目標

- 手にはめたラケットでねらったところにボールを転がし、相手とラリーを続けることができる。  
(知識・技能)
- ラリーが続きやすい打ち方や動き方を選んだり、友達に伝えたりできるようにする。  
(思考・判断・表現)
- コロコロテニピンに進んで取り組み、規則を守りだれとでも仲良く運動できるようにする。  
(学びに向かう力)

## 3. 基盤 } ※省略

## 4. 単元計画 }

## 5. 授業の実践

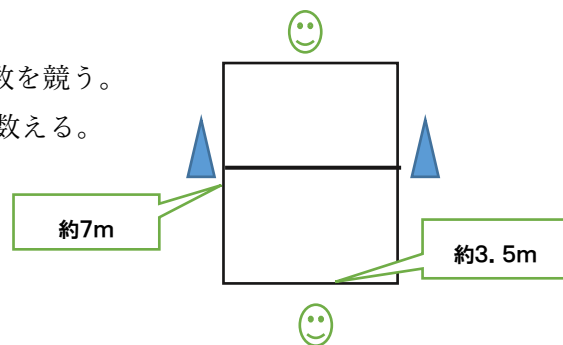
視点② になりたい姿に向かう「基礎感覚や基本技能を高めていくための手立て」について  
実践テーマ「中学年のテニピンにつながる低学年のボールゲームの実践研究」

### <ルール>

- ・2人組でコートの中の真ん中にあるコーンの間を転がした回数を競う。
- ・ラリーが途中で途絶えても、再開する時は回数を加えて数える。
- ・時間は1分。

### <用具、場>

- ・テニピンで使用するラケット (スポンジ製) を使う。
- ・ボールはソフトバレーボール (直径64cm) を使う。



(1) まず、ルールだけを確認し、試しのゲームを行った。ラリーの様子を見ていると、A ボールを体の正面でとらえ、打ち返す児童、B ボールを利き手の反対側の体の側面でとらえ、ラケットの裏面で打ち返す児童 (いわゆるバックハンド)、C ボールを利き手側の体の側面でとらえ、ラケットの表面で打ち返す児童が出現した。中学年のテニピンに向けて身に付けさせたい打ち方は当然 C の姿となる。そこで教師がボールを転がし A、B、C の打ち方を体験させ、どの打ち方が打ちやすいか (ここでの児童の“打ちやすい”は、ねらったところに転がしやすいという捉えではなく、自分が振りやすいという捉えに近い。) を選択する場面を設けた。



13人中11人がCの打ち方が打ちやすいと答えた。(残り2名はAと答えた。)

その後、ゲームの2回目を行った。試しのゲームとの結果の比較は下の表のとおりである。

	1組	2組	3組	4組	5組	6組
試しのゲーム	12	9	21	16	18	?
<b>2回目</b>	<b>18</b>	<b>16</b>	<b>23</b>	<b>19</b>	<b>20</b>	<b>17</b>

※6組の試しのゲームはラリー回数を数え忘れた。

(2) 次に、2回目のゲームを観察する中で、ボールがコートの方の端の方にもCの打ち方をするために、打ちやすい場所に体を移動して打っている児童を抽出し、全体の前で試技をさせた。



**T:** OOさんはね、どこに転がしてもCの打ち方でボールを打ち返してくるよ。見てて。  
**C:** (教師がコートの端に転がしたボールを回りこんで打つ。)  
**C:** 横に動いてる。  
**T:** 忍者みたいに横に動いて、Cの打ち方をしてるね。Cで打つために自分が動くんだね。

その後、3回目のゲームを行った。試しのゲーム、1回目のゲームとの結果の比較は下の表のとおりである。

	1組	2組	3組	4組	5組	6組
試しのゲーム	12	9	21	16	18	?
2回目	18	16	23	19	20	17
<b>3回目</b>	<b>22</b>	<b>23</b>	<b>25</b>	<b>18</b>	<b>22</b>	<b>19</b>

(3) 授業の最後に、より多く点を取るためには、「自分の体の右側(左側)で打つ」と「横に動く(忍者みたいに)」ことが大事であることを共有した。この二つを使ってもっとコロコロテニピンをしたいという児童がほとんどであった。

	1組	2組	3組	4組	5組	6組
1回目	12	9	21	16	18	?
2回目	18	16	23	19	20	17
3回目	22	23	25	18	22	19

自分の体の右側(左側)  
 +  
 よこに動く(にんじり)

## 6. 成果(○)と課題(●)

- 転がってきたボールに対して打ちやすい場所がある(テニピンの場合は体の側面)ということを知り、低学年からも意識して運動できることが分かった。ここで得た知識、技能は中学年のテニピンや他のネット型のゲームであるソフトバレーボールの「ボールの落下点に入る事」、ベースボール型では「バットでボールを捉えるには体の側面で打つ事」などに転移、活用できるものと期待ができる。
- 今回は上記の内容を検証することが目的であったため、直接指導的な場面が多くなってしまった。本来なら低学年であるから“遊び”の中の必要感(ラリーを続けたい、点を取りたい、勝ちたいなど)から自然発生的に、子ども達自らが今回検証したような打ち方を追求するような授業が望ましいと考える。